

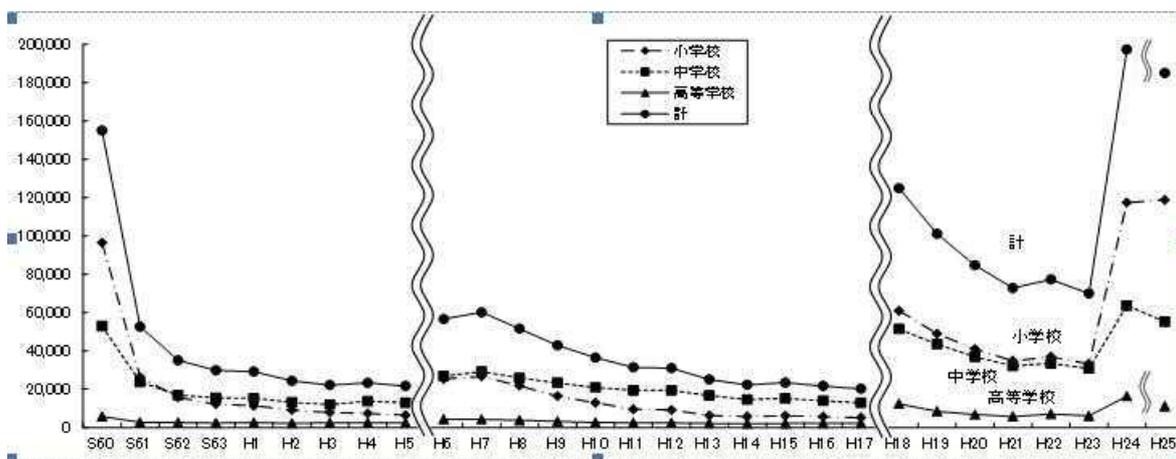
## 12. いじめ・自殺・児童虐待

### (1) いじめ

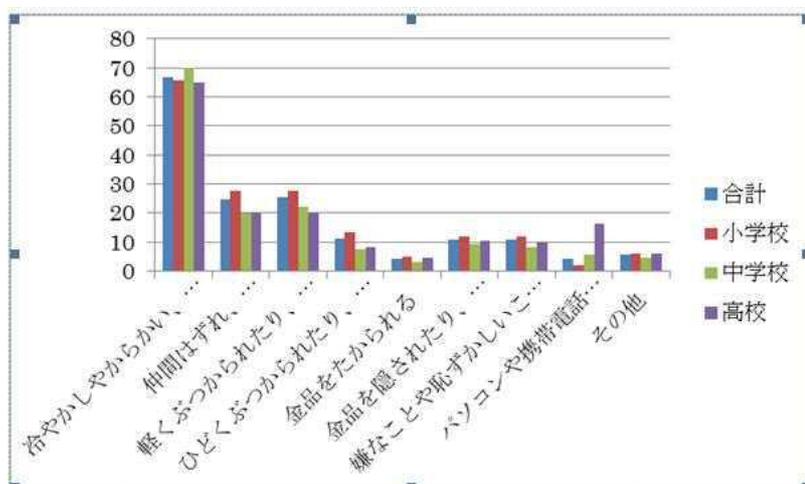
文科省の「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2012年)によると、全国の小学校、中学校、高校、特別支援学校、合計 38,846 校で、「いじめ」が認知された学校数は、22,273 校 (57.3%) で、198,109 件となっている。(平成 23 年度⇒24 年度で約 2.2 倍化)。また、文部科学省の「子ども白書」によると、小学校におけるいじめの被害経験率は、2004 年頃から男女とも 50%~60% と高い。別の統計では、2007 年度の小学 4 年生が中学 3 年生になるまでの 6 年間の「仲間はずれ・無視・陰口」の経験回数では、被害・加害ともに 13% 前後である。いじめは、特定のいじめられっ子やいじめっ子の問題ではなく、加害者・被害者が入れ替わりながら常に起きている。

態様もさまざまだが、すべての学校で「冷やかしやからかい」がずば抜けて多いことに対して、「パソコンや携帯電話で」が高校性で多くなっていることも気になる。

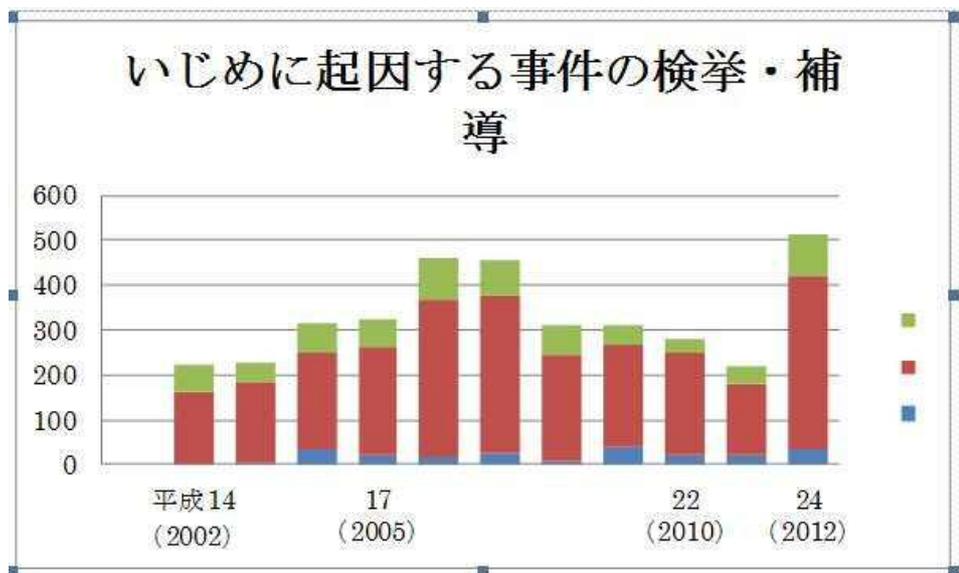
#### ◆いじめの認知件数の推移 (「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」2012)



#### ◆いじめの態様 (「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」)



◆いじめに起因する事件の検挙・補導件数（「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」）

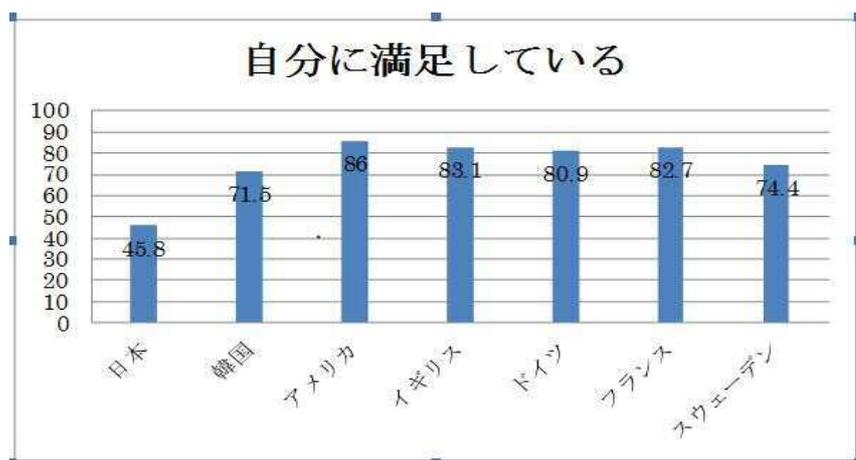


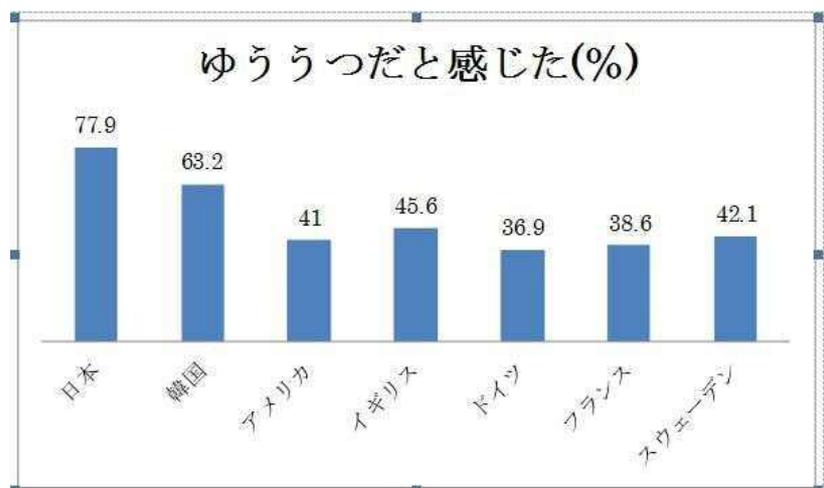
また、学校での暴力行為(自校の児童生徒が故意に目に見える物理的な力を加える行為)が全国の小中高校で 55,836 件発生している。

## (2) こどもの自殺

児童・生徒(小学生～高校生)の自殺者数は、平成 24 年度 195 人となっている。長いスパンで見ると減少傾向ではあるが、ここ数年は 137 人～202 人と横ばいという状況。自殺した児童生徒が置かれていた状況は「不明」が一番多く約半数を占めている。いじめ問題による自殺は中学生で 10%と高くなっている。（「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」2012）

別の調査で若者の意識の国際比較をしたものがある。それによると、日本の若者は諸外国と比べて、自己を肯定的にとらえている者の割合が低く、自己に誇りを持っている者の割合が低いという結果である。また、心の状態として、「この1週間に悲しい」と感じた日本の若者の割合は7割強、ゆううつだと感じた者が8割弱で、いずれも諸外国と比べて高い。





(「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」2012)

### (3) 児童虐待

児童相談所での虐待に関する相談件数は、児童虐待防止法施行前の1999年と比較して2012年は、約5.7倍の66,000件余り。防止法施行以降、学校においても児童虐待の早期発見の努力義務や通告義務が周知されているが、児童相談所の体制不足もあり、可能な限り学校としての解決をはかろうとする傾向があることも指摘されている。日常的に子どもの変化に気づくことのできる学校と児童相談所等の相談機関との日常の連携強化が必要になっている。(「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」2012)

### (4) 背景

虐待やいじめの背景の一つに「こどもの貧困問題」がある。日本のこどもの相対的貧困率は1990年代からおおむね上昇傾向にあり、2009年には15.7%とOECD加盟国34か国中10番目に高い。さらに、こどものいる現役世帯のうち大人一人の世帯の相対的貧困率は、50.8%とOECD諸国の中で最も高くなっている。

経済的理由により就学困難と認められ就学援助を受けている小・中学生は2012年には155万人にのぼり、過去最高の15.64%という状況である。(「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」2012)

一人親家庭という状況や貧困問題が、子どもたちの背景にあることを常に視野にいれておくことが必要である。